

翌年に向けたナシ黒星病の防除対策を徹底しましょう

・9月上旬の巡回調査では、新梢葉における黒星病の発病葉率は低い(0.2%)ですが、発生地点率は依然として半数近い(45.5%)園地で発生が確認されました(図1)。

・少発年の翌年であっても多発した事例があるので、秋季防除によるりん片への感染を防ぐとともに、園地周辺を含めた落葉処理(図2)を徹底し、秋型病斑(図4)のある落葉を適切に処分しましょう。

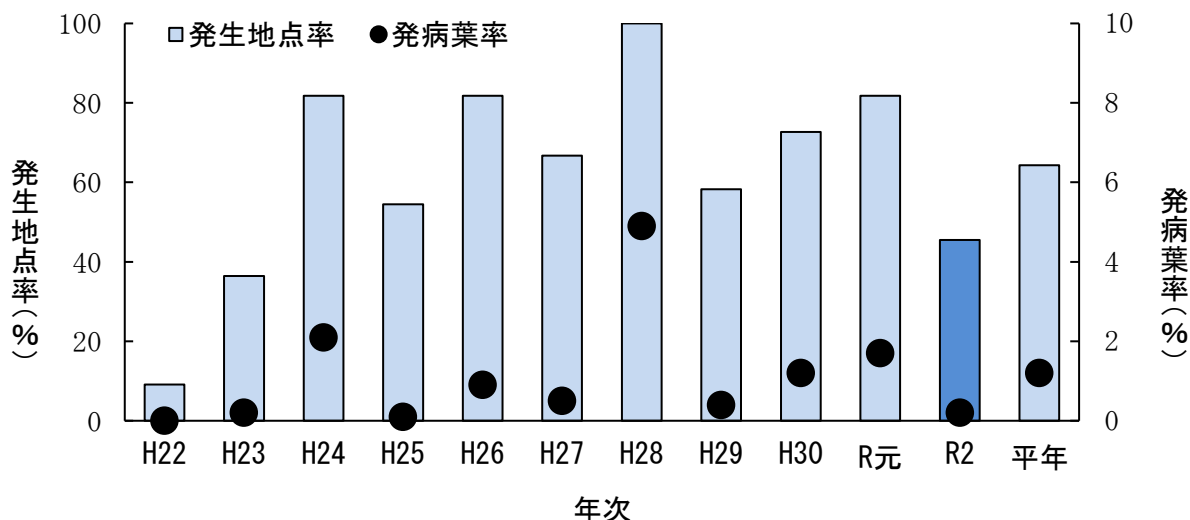


図1 9月上旬における黒星病(新梢葉)の発生状況

注) 平年値は過去10か年

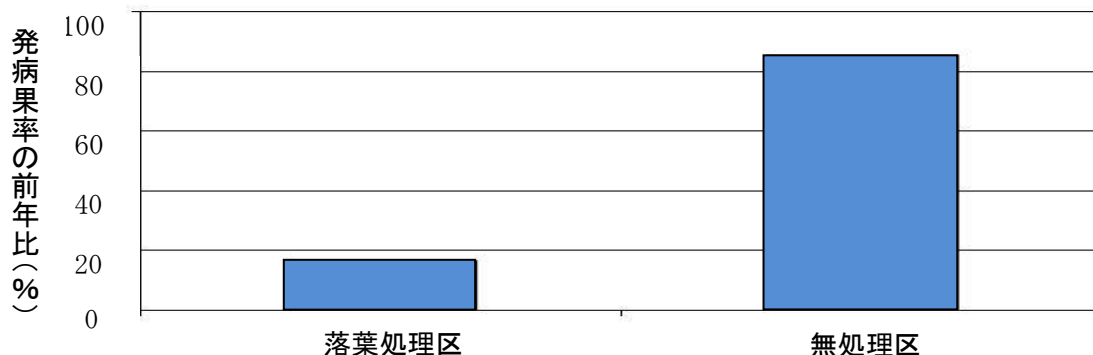


図2 落葉処理後の果実における黒星病の前年発生比(A町・平成29年)

注1) 落葉処理区:ロータリーによる落葉処理を実施(平成28年)

注2) 品種は豊水, 平成28年(処理前)及び同29年(処理後)の7~8月の発病果率の比較

注3) 両区ともに薬剤散布は現地慣行で実施

(宮城県農業・園芸総合研究所)

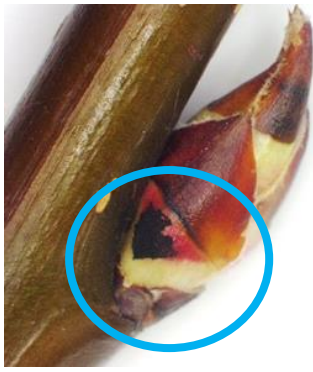


図3 りん片病斑



図4 秋型病斑(葉裏に発生する薄しみ状の病斑)

防除のポイント

黒星病の翌年の第一次伝染源は、年内に罹病葉から感染したりん片病斑(図3)と、秋型病斑(図4)のある落葉です。伝染源量を減らすため、以下の対策を徹底しましょう。

(1) 秋季防除

- りん片への感染を予防するため、収穫直後(ただし、落葉前まで)の防除を徹底しましょう。その場合、混植園では各薬剤の使用時期(収穫前日数)に注意してください。
- 果樹の農薬使用回数は、前作の収穫後からのカウントになるので注意してください。
- 薬液量は十分量とし、散布ムラのないよう、園地の隅々まで丁寧に散布しましょう。

(参考) ナシ黒星病の主な登録薬剤(令和2年度宮城県病害虫・雑草防除指針から抜粋)

薬剤名	使用時期	本剤の使用回数	希釈倍率	FRACコード	備考
オーソサイド水和剤80	収穫3日前まで	9回以内	600倍	M04	混植園では各薬剤の収穫前日数に注意する
ベルコート水和剤	収穫14日前まで	5回以内	1,000倍	M07	

※令和2年10月14日現在の登録内容

※FRACコードは、殺菌剤の作用機構分類を表す

(2) 落葉処理

- 落葉処理を実施することで、翌年の子嚢の飛散量が減少し、栽培期間を通して黒星病の発生が抑制されます。
- 完全に落葉した後に、園内の落葉を集めて土中に埋めるか、ロータリー耕によるすき込み等によって適切に処分しましょう。労力的に難しい場合は、モア等で落葉を粉砕するだけでも有効です。

参考「普及に移す技術 第94号参考資料13」<https://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/735200.pdf>

－農薬の適正使用について－

- 1 ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分に確認する。
- 2 ラベルの注意事項にある「注意喚起マーク」の表示に従い、適切な保護具を着用する。
- 3 農薬の使用前後には、防除器具を点検し、十分に洗浄されているか確認する。
- 4 近隣住民等に散布スケジュールを事前に周知し、周辺環境への飛散防止に努める。
- 5 農薬は計画的に購入・使用し、使い切るよう努める。
- 6 散布後には農薬の使用履歴を記帳する。

※薬剤の選定に当たっては、最新の農薬登録情報を確認してください。

独立行政法人農林水産消費安全技術センターのトップページ：<http://www.famic.go.jp/>

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429 E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp